

特別優秀賞

気づかされた心

福岡県 松ヶ江北小学校 四年

古賀 凜

「こないで、近よらないで。」

わたしは思わず、四才の妹に強くさげんでしまいました。妹が通っているようち園で、コロナウイルスの陽せい者が出たと連絡があったからです。妹はその日、のうこうせっしょく者になってしまいました。

わたしの家では、コロナウイルスにかからないように外食はせず、遊びに行くのもひかえ、とてもとても気をつけていたのに、「どうして、どうして」と、頭の中がぐちゃぐちゃになってしまいました。ハッとして妹の顔を見ると、とても悲しそうな顔をして、そっとわたしのそばからはなれました。

そのときのわたしは、自分もコロナウイルスになるのではないかと、こわくてたまりませんでした。家族全員にうつったらどうしよう、学校みんなに「さわらないで、あっち行って」と言われたらどうしようと、不安でいっぱいでした。

ようち園でコロナウイルスが出なかったら、妹がのうこうせっしょく者にならなかったら、学校に行って勉強したり、遊んだりできたはずだったのにと、心の中でずっと思っていました。とにかく、自分のことしか考えていなかったと思います。

だけど、小さな妹がわたしの言うことをきいて、近づいてこなかったり、少しはなれたところでごはんを食べているのを見て、心がズキッといたくなってきました。

次の日、妹がPCRけんさをして帰ってくると、お母さんは、

「いたかったのに、よくがんばったね。」

と妹をだきしめていました。妹は、好きでのうこうせっしょく者になったわけじゃないのに、わたしは自分のことばかり考えて、ひどいことをたくさん言ってしまったことを、とてもこうかいしました。

二日後、けんさけっかがわかりました。けんさした全員がいんせいでした。お母さんが、

「だいじょうぶだったよ。」

と言うと、妹は走ってきて、わたしにだきついてきました。

わたしは妹に、

「ごめんね。本当にごめんね。」

と何度もあやまって、ぎゅうっとだきしめかえしました。

次の日、休んでいた学校にドキドキしながら行って、不安な気持ちで教室に入ると、

「りんちゃん、待ってたよ。」

と、友達がニコニコしながら言いました。だれひとり、「さわらないで、あっち行って」と言う人はいませんでした。わたしは、妹にあんなことを言ってしまった自分が、本当にはずかしくてたまりませんでした。

コロナウイルスになった人がいても、決して差別してはいけない、コロナウイルスは差別する病気ではないと強く思いました。そしてコロナウイルスはわたしに、自分の心、人の心を教えてくれました。